

第1回 町民講座

『つつべつの森林』がもたらす豊かな地域社会を目指して！

平成28年3月に策定しました「津別町モデル地域創生プラン」に基づき、津別町の森林資源を活用した再生可能エネルギー活用を検討する「第1回町民講座」を、9月20日(火)に津別町林業研修会館集会所で町民など43名の参加を得て開催しました。

再エネ町民講座の開催内容

町民講座は、地球温暖化対策や地域内の資源を活用し再生可能なエネルギーを活用し資源と資金を地域内で循環することによる産業の継続と雇用の拡大、豊かな地域社会を作り出す施策について、共有を図ろうとするものです。



▲再エネ町民講座の開催状況

今回は、岡山県西栗倉村の先進事例について講演をしていただきました。講演終了後は、講演内容について参加者とディスカッションを行いました。

講演

「百年の森林事業」西栗倉村の地域創生プラン策定事業



岡山県西栗倉(にしあわくら)村 産業観光課長 上山 隆浩 氏

「プロフィール」1960年生まれ、同村出身。2008年4月現職。西栗倉村内の地域資源を活かしながら地域活性化に取り組み。「百年の森林構想」の推進や「環境モデル都市構想」「バイオマス産業都市構想」を掲げ、小水力発電事業の収益を新たな再生エネルギーの導入や二酸化炭素の削減に再投

資することで村の地域資源を活用した新たな地域経営モデルの構築と魅力ある中山間地の将来像を提示したいと考え、実現に向けて力を注いでいる。通称・スーパー公務員。

西栗倉村は

岡山県の最北東端に位置し、兵庫県鳥取県と境を接する。人口1505人、高齢化率35%、面積57.95km²で、約95%が山林、その内約85%を杉や檜などの人工林が占めている。森林を活用して、低炭素で環境にやさしく、魅力的な中山間地域づくりを目指しています。

森林を軸とした地域活性化の試みの背景

平成16年8月、近隣地域との合併協議会を住民投票の結果に基づき離脱、それ以来、村面積の大半を占める森林を軸とした地域活性化を通じて、小規模自治体としての生き残りを模索してきた。平成25年に環境モデル都市に指定されました。

百年の森林構想着想

平成20年度から樹齢百年の美しい森林に囲まれた「上質な田舎」をつくろうと、昭和40年頃植栽され、その後の林業不況

により管理されていない森林を村が所有者と、「長期施業管理に関する契約」を結び、森林を預かって「百年」管理整備することとした。契約者691人、面積1347ha(目標3000ha)。

百年の森林事業による活性化

適正な森林管理を行うことで、木材の安定供給が可能となり、所有者・村・森林組合が施業管理することにより、概要図にあるような森林管理コンサルティング、木材加工流通事業、地域熱供給会社などベンチャー企業が関わり、地域内循環による活性化が図られた。

木材の活用システム構築

間伐材は、A・B材は域外の原木市場に安く出されていたものを、流通コストの削減、需要に合わせた販売が可能となり地域内の製材工場へ販売する。C材は未利用材として放置されていたが、積極的に搬出し、木質バイオマスとして活用することにより価値を見出した。

未利用材搬出システム(木の駅プロジェクト)

置き去りにしてある間伐材(「オニ

ディスカッション

コーディネーター(進行)



自然エネルギー研究会(ネルギー研究センター)代表取締役センター長・工学博士 大友 詔雄 氏

「プロフィール」第1回勉強会で講演、広報7月号に詳細掲載。

- 会場の参加者から提出された質問表に基づき、大友氏がコーディネーターとなり、講師の上山氏、JEMAI 壁谷氏とディスカッション(意見交換)を行いました。主な質問は、
- ①ローカルベンチャーの判断・アイデアは誰が発案し、進めているか。
 - ②地域おこし協力隊の住宅確保について
 - ③薪ボイラーを活用している主な要因は
 - ④林地未利用材だけの燃料供給なのか
 - ⑤上質な田舎とは

上山課長の答え

- ① 起業で成功した講師に提案して頂き一緒にもんで行く。協力隊は4年後の独立に向けて準備する。行政は出ない。村長決裁も要らない。3年間は国から資金が出るので、かけてみる価値が十分にある。
- ② 空き家には限界があり、現在はローカルベンチャーが家を建て、村が購入し、管理してもらうBTO方式。
- ③ チップはインシャルコストが高く、薪は薪割機と土場代でコストは500万

円位で始められる。

- ④ 熱供給関係で未利用材(間伐材) 560tの量で、北海道の寒冷地暖房の使用とは桁が違う。林地未利用材(端材)で採算を取るの難しい。
- ⑤ 都会のエッセンスを取り入れた地域として生きていくという意見。環境・安全・レジデンスを担保されながら、文化性のある地域づくり。と、丁寧に回答いただいた。

JEMAI 壁谷氏からの意見

西栗倉村のすごさは人材を村外の人も含めてどんどん巻き込み、だまされない目利きの方が地元を理解した結果にある。川上・川中・川下の大きな循環ができて

いる。目指しているのは地域の新しい産業であり、既存のプレイヤーが更なる発展をしていく自覚。ここに付加価値を置き、投資したお金を回収。力強い地域の大きくなつてきた。現場からのコメントを頂いた。

終了予定時間を延長し

「津別町モデル地域創生プラン」実施に向け大変意義のある講座となりました。



▲上山課長(左)と壁谷氏(右)

を村落エネルギー(株)が指定した収集場所まで山主が運んでくると、「オニ券」で運搬料が支払われます。 ※「オニ券」は協力商店で買い物の際に利用できます。

地域おこし協力隊24名活動、地域おこし協力隊は、百年の森林構想に夢を託した人を採用。起業準備軍として活動している。ローカルベンチャーは13社、雇用創出117名となっている。

